

【小樽青色申告会連合会会長賞】

コロナウイルスと税金

小樽市立長橋中学校 三年

桐澤 乃愛

二十十九年十二月初旬、コロナウイルス第一例目の感染者報告。昨年一月十六日、国内初の新型コロナウイルス感染者確認。未知のウイルスに対し世界中が混乱している中、私は「きっと大丈夫だろう」と思っていました。しかしそれも束の間、昨年一月二十八日北海道初のコロナウイルス感染者確認。

新型コロナウイルス感染者が確認されてから私達の生活は大きく変わりました。

「自粛」「緊急事態宣言」「蔓延防止等重点措置」というものが出て自由に外出することができなくなりました。それに加え、予定されていた修学旅行の延期、部活停止、学校の休校。中学校生活の思い出はコロナウイルスの事ばかりです。昨年からずっとマスク生活で思うように人と話す事が出来ず、人の顔を覚えるのが苦手な私は部活の後輩の顔を中々覚えられませんでした。どうして広がってしまったのか、いつコロナウイルスはなくなるのかという事はいくら考えても分かりません。不幸の連続で気力を失くしていた私の気力を取り戻してくれたのは、私達の為に自らの命を懸けて働いてくれている医療関係者の方々の存在です。しかし、個人の力でどうにかなるようなウイルスではありません。私には、消毒の徹底やマスク、無駄な外出を避け

るということしかできませんが、皆で力を合わせればきっと乗り越えられる壁だと思えます。

そこで私は税金について気になりました。なぜなら、PCR検査や入院費などのお金はどうなるんだろう、と思ったからです。入院や治療・検査などは医療費控除の対象に入りますが、コロナによっての入院や検査などは医療費控除の対象に入るとか疑問でした。そこで調べたところ、新型コロナウイルスは「指定感染症」であることから、入院した際の医療費やPCR検査は公費で負担されるため自己負担にはならないということが分かりました。私はそこで初めて「税金はこんな所にも使われているんだ」と知りました。公共事業や教育委員など色々なものに私達から集めた税金が使われているということは知っていました。コロナウイルスに関する入院費や検査費にまで使っているのは知らず、驚きました。

消費税率が増えていく度、正直「面倒くさい」という気持ちがありました。私達が消費税などの税金を納めることによって誰かの力になることが出来れば嬉しいな、と思ったし、コロナウイルスが完全になくなって私達が税金を納めてきた意味の一つを実感してみたいと思いました。まだまだ税金のことは分かりませんが、これを機会に将来の私達のことを考えながら学んでいきたいな、と感じました。先が見えない中で毎日働いてくれている医療関係者の方々含め色々な方々に感謝しています。